

稲弓会ニュース

No46.令和元年 10 月

令和元年度上期トピックス



- 小川六実さん（S53）が稲弓会並びに全日本学生弓道連盟副会長に就任されました。稲弓会としても支援させて頂きたいと思っております。
- 5月5日に行われた都学連100射会に於いて、宮川晃弥君（スポ2年）が97中で優勝しました。又、千葉智弘君（先進2年）が86中で10位入賞しました。
- 6月16日に行われた全関東学生弓道選手権に於いて、千葉智広君（先進2年）が3本競射のあと、8寸的5本目にて、個人優勝を果たしました。おめでとうございます。
- 上記成績を祝い、6月30日に道場にてOBも交えお二人の祝勝会が開かれました。
- 早稲田高校の吉田和樹君が10月の国体少年の部に東京都代表の3名の一人に選ばれました。規定により支援金が送られます。

(注) トピックス掲載案件がありましたら末尾担当までご連絡下さい。

訃報

小川広道氏（S60年卒）が7月29日（月）にご逝去されました。謹んで哀悼の意をささげます。合掌

稲弓会活動報告

令和元年早慶明遠の大会（学生、OB各12人立ち）

5月4日(土) 於：明治神宮中央道場

今年度は慶応の連続優勝となりました。早稲田はOB、学生とも昨年より的中を落とし、3位となりましたが、特にOBが前年比41中下回った結果です。

稲弓会 : 151中、学生 : 176中 計327中

三田弓友会 : 169中、学生 : 211中 計380中

駿弓倶楽部 : 174中、学生 : 187中 計361中

成績優秀者は高橋氏(H30)が皆中

参加者：行方氏(S45)/瀧本氏(S49)/山本氏(S59)17中

小島氏(S38)16中ほか

参加者

前列左より 佐藤氏/山本氏/石原氏/米田氏/井上氏/小島氏/

後列左より 穂原さん/内海氏/下山氏/村松氏/加藤氏/瀧本氏/



後藤氏/黒川氏/行方氏

第83回高柳杯50射会

5月18日(土) 於：赤羽体育館

第2道場の閉鎖により、弓道部の試合予定もあり会場確保が大変になりました。結果は、米田会長の3連覇及び2年連続の石原幹事長との同中優勝となりました。

優勝 米田氏、石原氏 36中

準優勝 加藤氏 30中

第175回三田稲門戦（12人立ち）

6月9日（日） 於：三田綱町道場

対三田弓友会戦は1引き分けを除く18連敗中（9年間）で、昨年85勝85敗4分となりました。

三田弓友会はこの対戦を非常に重要視していて、来嶋氏（S44）が18中を出すなど、その意気込みは強く、残念ながら今年度も大敗し、通算で負け越しとなりました。

稲弓会 122中 : 150中 三田弓友会

6月1日(土) 於：校友サロン及び森の風

参加者(順不同)

永山氏(18 中)/奥村氏(14 中)/西野氏/中谷氏(12 中)/高橋氏(11 中)/松田氏/山本氏/石原氏/小島氏/佐々木氏/原田氏/米田氏/鏡さん/穂原さん/佐藤氏/井川氏/西田氏/黒川氏/瀧本氏/行方氏/鈴木氏/小川さん

第 11 回稲弓会例会

6月2日(日)

公式戦、特に三田稲門戦を睨みレベルアップを図る為に、平成 27 年より開始された例会も 11 回を迎え 16 名の方が参加しました。

優勝 米田氏 16 中

参加者(順不同)

山本氏/石原氏/小島氏/佐々木氏/原田氏/穂原さん/佐藤氏/井川氏/西田氏/黒川氏/瀧本氏/行方氏/多賀氏/井上氏

参考(歴代優勝者)

第 1 回 H27 年 11 月 22 日 優勝：永山氏(H27) 19 中
第 2 回 H28 年 1 月 24 日 優勝：永山氏(H27) 18 中
第 3 回 H28 年 6 月 5 日 優勝：佐藤氏(S59) 12 中
第 4 回 H28 年 11 月 20 日 優勝：石原氏(S51) 13 中
第 5 回 H29 年 1 月 24 日 優勝：木俣氏(H3) 14 中
第 6 回 H29 年 11 月 19 日 優勝：石原氏(S51) 16 中
第 7 回 H30 年 1 月 28 日 優勝：庭田氏(S61) 14 中
第 8 回 H30 年 7 月 21 日 優勝：石原氏(S51) 18 中
第 9 回 H30 年 10 月 21 日 優勝：小川さん(S53) 13 中
第 10 回 R 元年 2 月 11 日 優勝：石原氏(S51) 15 中

第 30 回ゴルフコンペ

5月22日(水) 於：日高 CC

優勝 岩崎氏 (S37)

準優勝 村松氏 (S47)

次回稲弓会ゴルフコンペのご案内

記

<日時>11月27日(水)

<場所>常陽カントリー倶楽部 0297-58-1221

(〒300-2351 茨城県つくばみらい市善助新田東原)

<交通>車：常磐道 谷和原 IC より 7 km

電車：つくばエクスプレス「みらい平」駅より

倶楽部バスあり (10 分) 8:13 8:27

<スタート>IN 9:59 分より 5 組予定

令和元年総会及びホームカミングデー

今回初めて、本部キャンパスを俯瞰できる大隈タワー16階

(校友サロン)及び 15 階(森の風)を会場に総会及びホームカミングデーが開催されました。

例年に比しやや少ない、総会に 29 名、ホームカミングデーに 33 名の方の参加となりましたが、議案の決議と親交を深めることができました。

ホームカミングデー招待参加者(14 名)順不同

畠中氏(S29)/井上氏(S33)/小笠原氏/金原氏(S36)/高緑氏/長谷川氏/外山氏/鳴嶋さん(S44)/加藤氏/館野氏(H1)/中谷氏/岡本氏/渡邊氏/正木氏(H31)

来年度招待者は 80 歳以上の方、及び S45、S55、H2、H12、H22、R1 の方々です。

オリンピック余波

稲弓会会長 米田文彦

来年の夏は 2020 東京オリンピックです。前回の東京オリンピックを思い出せば私も大学生、弓道のデモンストレーションとしての薩摩日置・腰矢組弓を初めて拝見した記憶があります。当時新築の日本武道館は柔道会場でした。来年も柔道・空手の会場になるそうで、建築以来 50 数年ということもあり、6 月末から大幅な改修工事中です。

そのため学生弓道界が受ける影響をお話します。順番として今年も東京開催のはずの夏の全日(インカレ)は神戸開催になりました。大会規模からいって東京では日本武道館以外は厳しいのです。来年もオリンピック本番ですから、8 月の全日は神戸連続かもしれません。とにかく、東京は使えない。6 月の全関東大会も然りです。

更に現実的な話になります。稲弓会では全日遠征費用として東京以外(神戸・名古屋)開催については 150 万円を補助しています。東京開催の年は 50 万円の予定(見直し検討中)です。今までは 3 都市持ち回り開催でしたから、今回のように 150 万円補助の年が連続すると 100 万の支出増が予定外に続く訳で、会計規模 280 万程度の稲弓会(つまり貴重な、年 1 万円会費の合計、300 万には届かない)としては厳しいこととなります。幸い、諸先輩方の知恵と努力の賜物である貯金が他にありますから当面大丈夫ですが、また稲弓会には会社経営、経理エキスパートの方々が多くおられますから、その方々にもお願いして、健全経営が続きますように検討をしているところです。

しかし、何よりも会員皆様方から頂く年会費、ご寄付がすべての基盤であることは論を待たないのでありまして、今後とも是非よろしく願いいたします。

念のため、その入金振込口座を書かせて頂きます。

郵便局振込番号 00110 3 108277

加入者 稲弓会

続きます。全日遠征で 150 万補助すると、学生にはどれだけの影響

があるか？助かるのか？を考えます。選手は登録男子 8 名女子 5 名、個人戦のみ選手、付添・手伝い男女数名、遠的選手、男女の 3 大学（関関同）定期戦要員、等で延べ 20 数名でしょうか、個人には日数の多寡により違いますが、一人平均 6 万程度の補助になります。部員は 8 月末に合宿もあり、その費用も当然必要で、遠征の宿泊は安いビジネスホテル程度（以下？）、新幹線代は仕方がない、ということで、つましくやっているのですが昨今の情勢、厳しいものがあるようです。

少し別の話になるかもしれませんが、現在の早稲田大学は当然ながら昔とは違います。

昔は、授業に出席するかどうかは練習との兼ね合いで・・・、ということもあったのが私の実情でしたが、今は授業出席の管理は厳格、学業成績の優秀な部員は表彰され、振るわない者は部長先生の面接が義務付けられています。学生も部長先生も大変なのです。

いろいろ書きました。どうぞ皆様方のご理解・ご協力を今後とも是非お願い致します。

「支援内規抜粋」

対象とする大会

全日本学生弓道王座決定戦、全日本学生弓道女子王座決定戦、及び東西学生弓道選抜対抗試合、女子東西学生弓道選抜対抗試合

支援金

王座決定戦については 40 万円、女子王座決定戦については 20 万円。選抜対抗試合は同行者を含め 1 人当たり 5 万円。

尚、別途全日本学生弓道選手権開催年により関東圏開催年は 50 万円、それ以外の地方開催年には 150 万円を支援する。

あの頃・・・そして今

第 1 回学生選手権のほか色々

稲弓会顧問 小林正巳（S32）

昭和 28 年 7 月 9 日 20 時 45 分発？夜間急行安芸号？で、第 1 回全日本学生弓道選手権大会に参加の為、東京駅を出発した。村井さんの優勝杯を新たに取れ！の大激励と、先輩諸氏や、学生諸君の見送りを受け、大阪に向かった。コーチの板倉さん、主将木方さん⑤、副将剣持さん、金庫番畠中さん、関口さん、堀越さん③、小沢さん②、斎藤さん④、と小林①の 9 名である（○は団体戦立順）。深夜 3 時 35 分？名古屋で細井さん、熊坂さん（昭和 27 年京都大会学生遠的優勝）の激励を受けた。翌日、中の島朝日新聞大阪本社の講堂で、日本学生弓道連盟の結成式典が行われた。昭和 26 年武道解禁迄、慶応、早稲田、他各大学の先輩、学生の GHQ 他への働きかけのご尽力のおかげである。翌 11 日奈良橿原神宮会館で、北の帯広畜産から、信州、関東・関西等 18 校 135 名、内女性は国学院の小池さん 1 名が参加し発会式。会場に大会運営の総務委員長として村上先輩が居られたのは、心強かった。12 日団体戦開始。早稲田 14-10 中央、早稲田 14-10 慶応、決勝は早稲田 13-10 同志社で、優勝権をもって帰る事が出来た。神宮道場の安土

を背に撮影した団体優勝記念の写真は、全日学連事務局（日本武道館 R 元年 8 月改修中飯田橋仮寓）の第 1 回選手権資料ファイルの中に残した。個人戦は手元に記録が無く、申し訳ありません。28 年秋のリーグ戦は明治に敗れ、最初の王座は参加できず、翌年の関口さんの年に王座獲得。30 年の全日本は、大野さんのあの個人 3 連覇が始まった年である。さて 31 年の選手権は、どうしても記載しなければいけない事項である。埼玉大宮公園での決勝戦相手は宿敵明治。増岡さん大野さん内藤さん中村さんと小林。先攻明治 14 中、早稲田途中 14 射で 8 中。6 射全部中て同中の事態となった。私の立ち番になり、列車の通過音が聞こえた。通過後立とうとすると貨物列車らしく長い時間が過ぎた。その後 5 射皆中し、私の止め矢。結果は失中！痛恨の状況となり、今でも鮮明にその時の状況を覚えている。自分なりの受取方では普通に引けたはず。何故か？その後の自分の弓の原点になった。今でもそれを引きずっている。その時の結論は、日頃の稽古に行き着く。ある意味感覚的に矢数を重ねた射で的中を追っていた。これで良いか、あれは準備したか。所謂「番固」を重ねる事にその後の射は、重点を置くようになった。私の個人としての成績は、当時のレベルでもなく不可もなく上の下と言った所か。大学 4 年間の公式戦全試合出場（途中交代 2 回）。3 年夏までは大前、秋から卒業まで落ちであった。30 年京都大会大学の部（31 年は中込さん）と、31 年選手権で個人の優秀賞（射形が良い）。的中では 31 年第 2 回東西選抜対抗で、東軍副将で 19 中。明治の清水頼三さんと同中。別に豊橋市賞有り 2 人で競射、頂いた事だけである。記憶に残る思い出は、1 年春早慶定期戦に破れ三田道場外で、村井さんに熱誠溢れるお叱りを受けた事。明るく日の報知新聞に 3 つの早慶戦特集で、三段抜きで小林 8 割 5 分の的中とあり、甘酸っぱい思いをした。私の弓の始まりは学院 1 年の冬同級生の T さん K さんと、近くにあった大学体育館の屋上で弓を見たのが初めてで、3 人で入部し教えて頂く事となった。大学にあった道具を拝借し稽古の毎日。アーチェリーでの大塚さん、細井さん（その後日本のアーチェリー界を導き、オリンピック活躍へ繋いだ礎石）も試されていた。監督は中野さんだが、あまり道場ではお目に掛からず、細井さん（当時本多流で前打起）が見てくれた。2 年生生の大学との初合宿は、水戸志村病院道場。大学主将は吉野さん、今も長野にご健在の副将柄沢さん、学院は田口さんで、お米持参。困った事は、毎食鰹が出てくる事で、味噌汁の実、昼鉄火丼、夜刺身。お陰で、その後 5 年間通った中禅寺湖の合宿での茗荷と共に、一生分を食べた感。水戸合宿打上げ射会で 15 中、矢頭にして頂いた。その後、久保田さん執筆の早稲田弓道 100 年史、木方さんの寄稿の「放浪の部生活」にある通り、体育館が他部使用となり、弓道部は外に稽古場を移す事になった。浦上栄先生に直接ご指導を頂いた。ジイーの伸び合いの大切さ、気が満ちた時の気力のパツ！この二つを基本にお教えを受けた。東京電力他の道場巡りが続いたが、稽古不足は免れず、私の近くに住まわれていた竹中さん（昭和 27 年京都大会学生近的優勝）が、引かれている浅草の窪田真太郎先生の道場に連れて行ってくれた。本当の意味で弓を始めたのはこの時からである。小笠原流で、道場には高的中の方々が揃って居られた。又加えて弓に関わる礼法を、小笠原清信 30 世宗家が 2~3 ヶ月に 1 回稽古日を設けられ、修行する事が出来、男礼 8 等と言う許しを受けた。礼法は武道に適するように、非常に厳しい、体を鍛える内容である。現在の全弓連の体配は、清信先生が、省略型として、多く

の人にこなせる様に替えたものである。昭和 29 年 5 月、京都大会の前日に実施の、大阪住吉大社遠的大会（現在も続いている）で、宗家による墓目の儀に、竹中さんと小林が介添えとして参加、社務所にこの掲額が残っている筈である。高校 3 年末頃から、現在使用している諸カケの 4 本遣いを始めた。周囲の皆さんの流行でもあった。大学 1 年時待望のトタン葺きの仮道場が、甘泉園に出来た。道具を神崎洋服店に預けての稽古の始まりである。稲垣さんが監督として最初中野さんと教えて居られたが、稲垣さんが専任となられた。4 つカケで印西を引かれたその内容は、唯々驚きであった。鋭い厳しい離れは、これが本当の弓だと、深い感銘を受けた。2 年には待望の新道場が完成、平明・伸びやかなデザインは「新建築」に記載、建築賞を頂いた筈である。道場開き当日、風強く、学生代表射 3 番の小沢さんが引いていた時、天井照明カバーが外れ、小沢さんが飛び上がった事を覚えている。女性第 1 期生の同学年の松下さん飯野さんが入部されたのもこの頃の事で、稽古帰り、高田馬場駅途中の、ホームラン軒のラーメンは本当に美味しかった。高 3 から大学 4 年まで 5 年間、日光中禅寺湖二荒山神社道場での夏合宿は、人体骨格の見本のある、博物館に泊まり、和泉屋さんでの食事と風呂。後年部長になられる、河竹登志夫さんの歌舞伎の怪談話に夜震えた。古河電工と試合のため市内に降りてくると、竹弓が気温と湿度で反応せず、毎年困惑した事が続いた。3 年の合宿終了後、部内のゴタゴタ（後述）が有り、秋季から主将を命じられ、1 年半の間責任者となった。4 年の夏、選手権終了後、稲垣さんの引率での、北海道遠征は、中込さんが早稲田弓道（20 年ほど前？）に詳細既報の通りで、在住の諸先輩に助けられ、北大や帯広畜産等連合軍と対戦した。北大寮歌「都ぞ弥生の雲」を教えて頂いた会食もあった。この後日談が 50 数年後にある。当時試合に参加した北大の 1 年下、玉川真純さん（永く大学の後援会長をされた）が、往事の私の事を覚えて頂いて、2008 年八戸高のコーチ時、小笠原風さんの大学入部への推薦のお手紙を頂いた。東日本高校大会に早稲田高校の監督で私の名前が出ていたご縁である。11 月には弓を引いていたお陰で就職先も決まる。銀座・浅草・横浜の松屋百貨店で、社長は東北大弓道部出身の古屋徳兵衛氏である。後年、私の人事ファイルの中に、部長の河竹繁俊先生から、古屋社長宛の、和の便箋にご自筆で書かれたお心の籠もったご推薦文を拝見する事が有り、唯々心が熱くなった。しかし、毎日弓しか引かず卒業単位の取得不足で、2 月ぎりぎり、どうやら卒業証書を頂くまでに漕ぎ着けた。在学中に失敗談は多いが、社会に出てこれだけは忘れないようにしようと、銘記した事が 3 つある。弓道部の忘年会、竹中さん（家業・牛鍋）でのお酒の飲み過ぎで、意識を失い、朝家の布団で目覚めた。道場へ出ると自宅へ送ってくれた中込さんから、昨夜の醜態の事を話して頂いた。日頃心に秘めていた事を全て放言していた。この事があってから現在まで、お酒の好きな私ですが、意識を失う様な酒は 1 歩手前で、必ず止めている。又、部のような 100 人に満たない集団でも齟齬が発生し、中核選手であった、堀越さん、斉藤さん等が時期は別だが、続けての途中退部を招いた。関係者の徹底した話し合いの欠落、相手を思いやらずの行動、今風に言えば、ある意味でのハラメント他、渦の中や、周りに居た自分。これは各自の将来にとっても、大変無駄な出来事であった。最後は勿論、選手権の失中！心する大事な事となった。稲弓会は各期の終了時に、学生への表彰を現在同様行っていた。村井さんの骨格そのものの字体の表彰状など、8 枚が

手元に残っている。さて、これらの経験を根っこに、実社会生活へ入った。最初の上司は、現三田弓会の来島さんの父上、毅さん。勿論三田弓友会である。販売促進、企画、ほんの少しの営業や経理、本社の最後は総務担当で、関係会社、最終はなんと無粋な私が 6 年間も、ファッション専門学校の校長、65 才で卒業。縁戚の会社を預かる事になり、現在に至っている。卒業後の弓は、最初の数年は会社弓道部でのほんの少しだけで、実体では 0 に近い。勿体ない事であったが、30 才前には殆ど止めてしまっていた。稲弓会にも欠席の連続であった。65 才で次の新しい生活が始まった時、学生時代のユガケが見つかり、幸いにも学校道場に現役時代の矢と矢筒が保管されていた。弓の再開である。最初は大変良く当たり、上達の目安として段位の受審をするようになった。大学現役時代は村井さんから、日弓連の段位受審は禁じられていた。（ご本人は範士 8 段）理由は審査そのものが、日弓連の金銭問題とからみ、又大学弓道がそちらへ傾斜することの忌避であった。高校時代の 3 段から、出発。今ようやく 6 段錬士で、教士挑戦中。平成 15 年秋、稲弓会会長の吉原さんから呼び出しを受け、早稲田中学高校（水稻荷神社神主で、浦上先生と共著のある、先輩の斉藤直芳さんの出身校（教頭）で、神社と学校の緊密な関係が今も続く）指導を打診された。渋木さんが担当されていたが、お年も重なり、私が小笠原流である事もあって承る事となった。平成 16 年 1 月の事である。またその少し前に、吉原さんから、付属・系属の 3 高校中学と大学弓道部の親睦射会を定例的に開き、将来大学弓道部への入部の一助とするべく、（3 高校の、多くの弓道経験者は部に入らず、同好会に進む事が多かった。）射会の持ち回り優勝杯（吉原さん自弁）を作れと、ご指示を受け、友人の松下徹章会長にたのんで、純銀製吉原杯が出来上がった。趣意書の巻物の記載は当然細井さんの筆によるものである。早稲田中学高校の監督の役目では、若い人との弓の稽古は、大変楽しく自分の稽古内容にも工夫が、重なった。自分の弓を見せる。指導内容は、全てに優先して「伸び合い」の大切さと、離れた後の残心の強さを中心に考えた。幸いに強い生徒が輩出し、東京代表として、全国中学 5 位、インターハイ 7 位、（小峯主将、佐々木さん等）大分国体には、都代表として、私も少年男子監督で、小峯さん、佐々木さん、佐伯さん（一橋）と一緒に参加した。この年は選抜大会代表にもなり、その他在任中、団体 2 回、個人 2 人が都代表として全国大会に、出場する事が出来た。指導する事は、自分の人間性を相手にどれだけ伝えられるか、こちらも受け取れるかの連続である。そして今も、その人達と交流が続けられて居る事の幸せを痛感する。しかし、時の経過と共に、稽古の中で、声をかける相手の生徒の名前が出て来なくなり、平成 26 年 3 月、バトンを原田さんに引き継いで頂いた。学校の大きな教室での、卒業生や、現役の生徒一緒に送別会は、私の晴れ舞台のように感じられ、楽しかった。一方、平成 15 年頃、吉原さんが体調を崩され、会長職を引かれる事となり、幹事会のご推薦で、私にお鉢が回ってきた。諸先輩が多く居られる中で、誠に恐縮な事であったが、承った。平成 16 年 7 月である。会長としてしての、実績は殆ど無い。唯一心掛けたのは、大学、稲弓会が必要とする時の、諸支援である。その意味で、静岡の市川さんはじめ、匿名の有志や、会員諸氏の皆様の、度々の機会ある毎のご協力に、感謝の言葉もない。幸いにも、中込さん小笠原さん黒川さんなど、諸氏に助けられ、26 年 6 月会長職を、小笠原さんに引き受けて頂いた。その間、会のもう一つの主題である、弓の成績は、就任時の

三田戦に勝利し、1 回だけ勝ち鬨を上げただけで、その後の連敗責任者の張本人である。主原因は、組織の組み立てを怠った事、加えて、各人の日頃の稽古量が相手と比し、不足ではと感じている。近時定期的に練習会等が催される様になり、心強い事であるが、毎月開かれる都内の競技射会等で三田方の参加が多く見られ、私の稽古先の窪田史郎先生（一橋師範）道場でも、毎週 5 人以上の梓会の方が、密度の濃い練習を重ねて居られる。平成 16 年 9 月から 29 年 9 月の間、吉原さんの後を受け、都学連副会長を、その後米田さんへの引き継ぎ続けた。主業務は、会長小笠原清忠先生の業務不在時の代行と、学生会計監査、都連理事（平成 18 年 4 月から 29 年 9 月）としての業務（理事会参加、都内選抜中高校生への指導他）。その間都学連が主催する、百射会・女子記録会や全関東選手権、他に選抜大会、夏の選手権等、現役学生の射を間近で見せて頂く、機会が増えた。率直な感想は、上位校の射のレベルの高さ（緻密さ）である。道具の進歩（グラス弓・アルミ矢）もあるが、丁寧な引き方の目立つ学校が多くなった。さて全関東の案内メンバー表は、毎年小笠原会長肝いりの、表紙が例年続く。平成 17 年第 35 回の表紙は、鎧武者の出陣の儀式を、靖国神社境内の満開の桜咲く場に、幔幕を引き回し、大将細井、副将中込、小林、介添え井上、黒川の皆さんで直垂、鎧冑姿で、重藤の弓を持ち、勝ち栗・のし鮑、で杯を上げる場を、小笠原流の協力で撮影したものが飾った。弓を通じ人と人との交遊は、大変永い、謂はば、生涯といってもと、なっている。加えて、媒介となるお酒も加わると止めどがない。部で、最初にお酒を飲ませて頂いたのは、高 3 年（すみません、当時はそんなに厳しくは無かった時代）に銀座のバーへ連れて行って頂き、サイドカーをこんなに美味しいものがあるのかと思った。新宿らんが、どん底、焼き鳥屋、牛鍋忘年会等、在部中の時々、飲酒の機会も多かった。卒業後は、一期上の内倉・藤原さん、同期の中込・中村・谷津・泉谷（三谷）・保科（松下）・高野（飯野）、次の増岡（前瀬戸市長）・井上・高畑・池田さんの皆さんと顧問役の細井さんと、真弓会と名付け交流の継続を計った。最初は、都内の飲み会であったが旅行がという事になり、京都から始まり四国遍路・伊勢・出雲大社はじめ、国内名所巡りとなった。中込さんが全てプラン作成実施、10 数回以上にわたって継続した。また、元部長河竹登志夫（歌舞伎界の第一人者、都民劇場理事長他）・細井さんと私の 3 人で、併せて 5 回ほど銀座の居酒屋での静かな歓談は、銘酒加賀鳶を教えて頂いた事と併せ大切な思い出となった。細井さんの酒は、別して親しくして頂いた。色々な場所も教えて頂き、お礼の言葉もない。格調高い飲み方は、バーのマスターも常々敬服し、今も話題に乗る。加藤金一さんは、私の隠れた師匠である。私の引き方のポイントを的確に指摘され、色々な質問も即座に解答をされる。加えて、弓に関する資料を沢山頂いた。一つの古語も、辞典の最終項目から見つけて、解説という具合である。彼との少しの酒での歓談も又嬉しい。昭和 9 年に生を受け、親の恵みを受け、85 年入院一つせず、健康で来たが、積年の不摂生が、病となって現れた。手足の異常な浮腫である。10 日間、生まれて初めての検査入院。腎生検を行い、尿への蛋白の流失が主因で、薬での治療が始まった。投薬前医師から、劇薬で骨・筋力の劣化が厳しいと事前通告。劣化進行を遅らせるための、有酸素運動での速歩等、運動の実施を言われた。弓の世界で、縦線の重視を言われる事がある。左右への伸び合いの余り、根幹を忘れるなという事である。薬をお飲み始め、次の

早朝から、速歩と足腰強化の運動を始めた。最初は息切れが激しかったが、3 日目あたりから順調に進む。歩く中、体の欠陥が明らかになる。右膝と踝が外に緩んで居る事。歩みも、只では前に進む事は出来ず、体を上に伸びながら行う事で、初めて前に進み、肩に入る力を抜くにも、やはり上に伸びが必要な事が判った。歩幅 80cm 秒速 2 歩、約 1000 歩で、運動する公園に着く。息を瞑想で整え、スクワット、膝を直角に、腕を前に伸ばし約 10 秒 5 回を 2 回、ベンチの背に軽く指を触れての、1 本足左右各 1 分、2 回、その間弓を持たない、射形の確認。40 分間の朝が終わる。この事を小笠原宗家に報告すると、それには、流鏝馬の木馬の射を実施しなさいと、教示された。木馬を両膝で締め、上体を直立、矢をつがえ乍ら弓を引く事である。やって見る。スクワットより何倍もきつい。夕刻道場へ行き、稽古。引き方に変化が出てきた。先ず、会での伸び合いに上へのそれが加わり、矢の飛びが良くなった。20 年前の再開後は、体力に比し強めの弓もあって、引き分け後の弓の揺れ、矢尺の不足、右肩の痠り、年の経過で左肩が抜け気味、が解決策のないまま経過した。学生時代の会の写真が出てきたが、思ったよりも引いていない。勝手は、潰れては居ないが、納まりは小さかった。又、その当時、会での勝手親指は、ピンポン玉のように感じ、そこに指が軽く乗っている丈で、少しの角見の働きで、離れた事も思い出す。揺れの事は、村上先輩の事が出てきた。印西での 3 分の 2 以降、揺れながらのそれは、ピッチが大きく緩やかであった事。そして今、稽古している重点は以上の事を組み合わせ、矢尺にとらわれず、取り懸けの指先・手首を始め、全身の何処にも力の凝り無く、柔らかく引く事。引き分けの揺れを大きな波に試みる事。大三で、右足踵を踏み締め、左腰を詰め、左肩・肘・押手の先まで展伸し引く事。揺れはいつか納まり、静かになった。これでござい。とは言っても年齢の事も有りの中率は、4 割。早朝運動を始めて、無休の 40 日。しかし、病の主因蛋白の流失は止まったが、薬の副作用は厳しく迫る。体力は、弓に具体的に結果として表れ、今が分水嶺の毎日が続く。でも、次の目標は、背中を使い方に定める。今は前半分しか使えなく、弓との一体感がない。その方法は？弓は楽しい、しかし難しい。でも続けたい。皆さん、縦線ちよと試して下さい。

令和元年 8 月 31 日識

「学生の試合結果については、早稲田大学 弓道部ホームページをご覧ください」

発行・稲弓会会長 米田 文彦
弓道部 HP <http://www.waseda-kyudo.net/>
〒202-0021 東京都西東京市東伏見 2 - 7 - 5
東伏見スポーツホール地下 1 階
TEL : 0424-65-5455 FAX : 0424-65-6419
稲弓会会費振込先
郵便局振込番号 00110 3 108277 加入者 稲弓会

[編集] 平成 28 年卒 鈴木 麻理